

高性能テレビ会議システム実演

新開発技術を披露

産総研と千歳科技大

産業技術総合研究所(産総研)と茨城県つくば市と千歳科技大(千歳研)は7日、次世代型の高性能テレビ会議システム「テレセッション」を活用した遠隔授業の公開デモンストレーション(実

演)を同大で行った。高画質な映像で時間差なくやりとり



高画質、低遅延のテレセッションを実演

でできる技術を披露した。

研究開発を進めるのは産総研の光ネットワーク超低エネルギー化技術拠点。文部科学省の支援を受け、民間企業と共に光回線を使った新たな通信網の構築を目指す。公開されたテレセッションは新開発した回路「光スイッチ」で大容量の情報を円滑に送受信できる。

テレセッションには、フルハイビジョンの4倍の画素数があり高画質の4Kカメラとモニター、映像信号の変換器を使う。今回は同大の本部棟と研究棟を、市役所を経由して接続。総延長は約15キロになった。顕微鏡の操作では本部棟の研究員に研究棟の教員や学生らが指示を出し、的確な位置や倍率で双方のモニターに表示した。

産総研は7月、実用化に向けた会社を設立。遠隔地医療や教育への活用を視野に入れている。